

## 【臨床・研究】

## 島根大学医学部泌尿器科における 腎移植の臨床成績

あり ち なお こ みつ い よう ぞう  
有 地 直 子 三 井 要 造  
やす もと ひろ あき しい な ひろ あき  
安 本 博 晃 椎 名 浩 昭

キーワード：生体腎移植，献腎移植，末期腎不全，透析治療

### 要 旨

当院は2005年に腎移植術を再開した。2013年12月までに合計21例の腎移植術を施行し、全例生着している。当院は2009年に島根県内で唯一の腎臓移植登録施設として認定され、これまでに3例の献腎移植を経験した。

当院はABO血液型不適合移植や夫婦間移植など免疫学的ハイリスク症例の腎移植にも積極的に取り組み、良好な成績を保っている。島根県内の献腎移植の普及が今後の最重要課題であるが、献腎移植の普及には島根県内における臓器提供が不可欠であると考えられる。

### 緒 言

世界的に末期腎不全患者は増加傾向にあり、腎代替療法として、QOLのみならず生命予後の観点からも腎移植は優れた治療法だと言える。その一方で、ドナー不足は非常に深刻な問題であり、わが国の透析患者数は30万人を超えたにも関わらず、年間腎移植症例数は1,500例前後で、献腎移植件数に至っては年間200例前後と低迷した状況が続いている<sup>1),2),3)</sup>。

当院は2005年に腎移植術を再開し、2009年に県内唯一の腎臓移植登録施設として認定を受けた。

島根県内には1,400人を超す透析患者が存在し、そのうち当院で献腎移植の登録を行った患者が44人である<sup>3)</sup>。当院は2005年～2013年12月までの期間に合計21例の腎移植を施行しており、2010年に当院で初めての献腎移植を行った<sup>4)</sup>。

当院で施行した腎移植症例の特徴とその成績および島根県の移植医療の現状、今後の課題について述べる。

### 対 象 と 方 法

2005年1月から2013年12月までに当院で腎移植を施行した21例（生体腎移植18例，献腎移植3例）を対象とした。ドナー，レシピエントの患者背景，生着率，合併症について検討した。

Naoko ARICHI et al.

島根大学医学部附属病院泌尿器科教室  
連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1